

鍼灸の歴史

国立大学法人 筑波技術大学 形井秀一

鍼灸医学は、最初のまとまった中国医学書とされる『黄帝内経』の成立時期から考えると、ほぼ2,000年の歴史がある。『黄帝内経』の体系は、『素問』、『靈枢』、『難経』を中心とした書籍群が明らかにするが、陰陽学説、五行学説、蔵府、経絡、腧穴、病因、治療の原則など、現代日本の鍼灸の基本理論はこの体系を引き継ぐ。

本体系は、黄河流域に生活していた漢民族の医学であり、漢字文化圏を中心に広がり、東アジアの国々の医学として長い間重要な役割を担ってきた。

日本へ正式に伝来したのは6世紀とされるが、朝鮮半島の人々との交流はそれ以前より長く続いており、中国医学は、朝鮮半島経由で早くから日本へもたらされていたと考えられる。701年の「大宝律令」の医事制度「医疾令」には、針師、針生、針博士があり、初めて公的に鍼が国の医学に位置づけられた。大和時代や奈良時代、平安時代の初期には、日本列島には、中国医学（漢方）、朝鮮の医方（韓医方）、日本の医療（和方）の三者が存在していたと考えられる。

平安時代から鎌倉時代に至り、日本は貴族社会から武家社会へ移行するが、戦乱が止まず、世相は乱れ、文化的にも衰退の時期である反面、宗教的なものが求められ、僧医が再び盛んになった。室町時代になると、僧医以外にも、眼科、金創、産科などを専門とする医師が生まれ、また、民間では灸治が盛んになった。安土桃山時代には、後世方派を立ち上げた曲直瀬道三が李朱医学をもとに随証療法を主導した。また、この時期には、金・銀の針を作り、打鍼を考案し、腹診を重視した御園流、入江頼明の入江流、また吉田意休を開祖とする入江流など、その後の江戸期の鍼灸に影響を与える流れが始まっている。

江戸期は、前期は後世方派が引き続き力を持つが、中期の元禄以降になると、古方派が台頭する。また、江戸期を通して、西洋医学がオランダ経由で日本にもたらされ、漢方にも影響を与え、江戸後期には漢方と蘭方を折衷する漢蘭折衷派も生まれ、西洋医学が東洋医学に取って代わることになる明治維新の変革へと突き進んでいくことになる。鍼の分野では、安土桃山から江戸前期の流れの中から管鍼法が生まれ、細い鍼や鍼管を使った微細な刺激法へと独自の変化が生まれた。また、灸は、石臼や唐箕などを使った精製度の高い艾を製造して、少ない熱量の刺激法へと変化し、民間での活用がますます広がった。

この江戸時代には、日本は鎖国体制を取って、アジアの国々を植民地化した西欧の圧力を避けながらも、中国・韓国からだけでなく、オランダを通じて、海外の文化・文明を自分のペースで摂取した。その結果、日本的な文化・文明を独自に育てながらも、世界から孤立せず、むしろ最先端の医学的発見や治療の試みを行うなどの業績を残した。この特殊な背景が、日本の鍼灸を日本の文化・風土にあったものに質的に変化させる要因となり、その質的变化は、明治以降の近代化・現代化に『黄帝内経』系の鍼灸が順応する切っ掛けを用意したと考えられる。

現代の日本鍼灸には、陰陽五行理論ベースの『黄帝内経』系の古典的鍼灸、現代中医学の影響を受けた現代中医学的鍼灸、現代医学をベースにした現代医学的鍼灸、圧痛や反応に対応した反応治療鍼灸、また、スポーツ鍼灸や美容鍼灸など専門科鍼灸、などが併存する。それらは、現代の日本鍼灸の様相に見えて、実は、過去の時代の鍼灸のあり方と関係深く、類似した存在の仕方をしているようにも見える。現代と過去の鍼灸の考え方との比較から、相互の流れと連なりについての考察もしてみたい。

■形井 秀一（かたい しゅういち）



国立大学法人 筑波技術大学
保健科学部 保健学科鍼灸学専攻 教授、大学院保健科学専攻 教授

専門分野；東洋医学、鍼灸医学、産婦人科の鍼灸、泌尿器科の鍼灸、
社会鍼灸学、触診学

略歴；

1975 年、東京農工大学卒業、

1979 年、東洋鍼灸専門学校卒業、

1981 年、筑波大学理療科教員養成施設卒業

1992 年、筑波技術短期大学助教授、

2005 年、筑波技術大学保健科学部教授、現在に至る

2010 年、同大学院保健科学専攻教授 兼務、現在に至る

1992 年、医学博士

2003 年から第二次日本経穴委員会委員長（現在に至る）

主な著書

『からだの声を聴く』『カラーアトラス取穴法 編』『治療家の手の作り方』『レディース鍼灸』、
『WHO International Standard Terminologies on Traditional Medicine in the Western Pacific
Region』『WHO International Standard Acupuncture Point Locations in the Western Pacific Region』
『WHO/WPRO 標準経穴部位—日本語公式版—』『詳解・経穴部位完全ガイド—古典からWH
O標準—』『イラストと写真で学ぶ 逆子の鍼灸治療』『産婦人科領域の鍼灸治療』ツボ単他。